

様式07 実施報告書

情報通信月間参加行事 実施報告書

行事ID	主催団体	行事形式(※)	行事名
C071	一般社団法人情報通信ネットワーク 産業協会(CIAJ)	④	小池 良次氏 講演「企業のAI導入と米国ICT業界」
開催日	開催場所	行事 参加人数	Webサイト・URL
6月10日	CIAJ 会議室 / オンライン併用	実地:6名 オンライン:117名	https://ischannel.ciaj.or.jp/seminars/164

行事実施概要・アピール等

【概要】

CIAJグローバル市場調査委員会 小池WGは、本分野の先端を走る、米国在住ICTジャーナリストの小池 良次氏から直接話を伺い、対面での質疑応答や議論が可能な数少ない場を提供し、会員企業のグローバル市場の動向把握に役立てることを目的に開催。今回、本年度第1回開催分をCIAJセミナーとして会員限定で公開。

1. NVIDIA GTC、Google Cloud Next等の最新展示会報告

基調講演、各社AIモデルや新製品・サービス、AI活用事例の紹介により、最新技術動向を把握した。

2. 米国企業のAI導入状況と市場動向

米国における生成AIの企業導入は試験レベルから実用化の段階に入り、企業基幹システムへのAI導入が大きなブームとなっている。しかし、企業は高いライセンス費用を嫌い、オープンソースの高性能且つ軽量な推論基盤モデルを採用し、ファイン・チューニングによって社内活用する方向へ進んでいる(「推論マーケット」)。

一方、AIモデルの性能向上でシャドーAI等による企業情報漏洩も発生しており、AIセキュリティの重要性も増している。

生成AIブームはハイパースケーラーが牽引しているが、通信事業者もB2Bサービスの新たな市場としてAI関連の模索が始まっている。

3. 米国放送通信業界のアップデート

米国ブロードバンド業界では、大手通信事業者による光ファイバー事業者の買収が続く一方、ブロードバンド普及の補助金政策は停滞。各社四半期決算や販売戦略から、5G Advancedによる新サービスが見えない中、T-Mobile US社は安定した事業を展開しているものの、特にVerizon社は大幅な携帯顧客の減少に直面し、CATV事業者もブロードバンド加入者数が減少の一途をたどっている等、大変厳しい状況であることを理解した。



企業AI導入と市場動向

- OpenAIがGPTを発表し、生成AI市場は価値約1兆ドル(2024年GPUベース)を有する。特にAI生成音楽モデル「Foundation Model」が開発競争を惹き起した。これで「学習マーケット」と呼ばれる。
- モデルの性能向上で、生成AIの導入率も年々上昇。OpenAI社やAnthropic社、Google社、Meta社などが開発した生成モデルのライセンス料金が、各社でラインナップ、ライセンス料金を支払うことで、社内開発する方法が主流だ。
- しかし、2025年初頭にDeepGen社が新規会員登録モデルを発表しており、生成AIの導入率が一気に上昇した。同時に、生成AIのモデル開発も進み、AIモデルの性能が飛躍的に向上する結果、生成AIの市場が急速に拡大している。
- 生成AIの普及によって、データの漏洩リスクが高まっている。データ漏洩リスクを低減する方法として、AIモデルのセキュリティ強化が求められる。
- 2024年秋、生成AI市場は「学習マーケット」から「推論マーケット」へ急速に移行している。
- それに伴い、推論モデルの需要が「クロス・オーバー」で急増。AIモデルの導入率が、大型多機能モデルから「オープンソース機械学習モデル」へと急速に変化している。
- 生成AIでは企業競争が激化する一方で、導入が大きなブームとなっている。この傾向には、T-Mobile US社の影響がある。

なにかある。

- ・ 生成AIによる社内ノワリの醸成と業務効率化
- ・ ショートAIなどによる企業内情報の整理効率化
- ・ 高効率な新製品サービスの開発効率化
- ・ 生成AIはデータセンターによる複数ツールが複数より連携してデータを分析する「データ湖構造」により、データの活用範囲が広がる。
- ・ 生成AI導入によって、生成AIによる新規顧客獲得が大きなチャートとなっています。2024年1月、生成AI市場はAIが主目的を果たしている。





